

光村 一下

詩 てんとうむし かわさき ひろし

第一次第二次指導混合で (1/1)

○ 本時の目標

- ・ 詩「てんとうむし」の面白さを味わい、楽しく暗唱することができる。

〈区画〉 1 p58 2 p59 3 最後の行 三区画

一 よむ (音読 二回 計六名)

二 とく (読後感の話し合い)

○ 題目 てんとうむし 板書

- ・ 見かけた天道虫の話

- ・ 「天道虫」に隠れている数

◎ ひびき (この詩が生まれた元を予想)

- ・ 挿し絵の不思議

- ・ 「ぼく」は、誰

- ・ 天道虫の自己紹介 (詩人の力)

○ 手引き (視写の指示)

- ・ 作文用紙に詩を全文視写

三 よむ (指示に沿って黙読)

四 かく (視写 教師は板書)

いっぴきでも

てんとうむしだよ

ちいさくても

ぞうと おなじ いのちを

いっこ もっている

ぼくを みつけたら

こんにちはって いってね

そしたら ぼくも

てんとうむしの ことばで

こんにちはって いうから

きみには きこえないけど

五 よむ (板書 指黙読一回、指音読二回)

六 とく (板書を活用した話し合い)

○ 語義 (難語句解消)・区分

- ・ でも、だよ、いのち、こんにちは、

- ・ ね、そしたら、きみ けど

- ・ 一、二区画を二区分(呼びかけと他)

◎ 心 (詩の楽しさを確認する)

- ・ 何を並べたから楽しい詩になったの。

- ・ 楽しい自己紹介とお願い。何を。

- ・ 天道虫の声が聞こえる川崎さんが、

- ・ おつと思った。

- ・ 命あるものは、友達だよという詩

○ 余韻 (どんな読み方が楽しいかな)

七 よむ (全員で板書を指音読)

(助詞、七音等のリズムを意識)

(音読後、暗唱に取り組む)

〈板書事項〉

てん¹⁰とうむし¹⁰

かわさき ひろし

いっ¹ぴき¹でも

てんとうむしだよ

ちいさくても

ぞうと おなじ いのちを

いっ¹こ¹も¹つて¹ いる

ぼくを みつけたら

こんにち²は²つて² い²つて²ね²

そしたら ぼくも

てんとうむしの ことばで

こんにち³は³つて³ い³う³か³ら

き³み³に³は³ き³こ³え³な³い³け³ど